

岡田

Okada Kazuya

和也

教育学研究科 准教授

本学にはユニークな研究者が多数在籍しています。そんな研究者の素顔に迫るこのコーナー。今回は詩人「みごなごみ」としても活躍中の岡田先生にインタビューしました。

- ▼専門は英語圏の近現代詩研究。とくにウィリアム・ブレイクの研究において、その獨創性を高く評価されている。
- ▼2000年頃より詩人「みごなごみ」として活躍
- ▼2004年、処女詩集『彼岸バス』（新風舎）を発行



詩をつくりはじめたきっかけ

昔から詩をつくっていたわけじゃないんです。今から9年くらい前に、隣の研究室にいるスコット・ガードナー（教育学研究科准教授）というアメリカ人の先生（同僚&知人）に、「一緒に詩をつくらないか」と誘われたのがきっかけですね。

最初は英詩だったんですけど、だんだん日本語詩に移行しました。人前で初めて詩を朗読したのが2001年12月28日。この日が「みごなごみ」の誕生日ですね。

ペンネーム「みごなごみ」の由来

まず、岡田和也の「和」で「なごみ」。そのまま「おかだなごみ」でも良かったんですが、「な

ごみ」を逆から読んで回文にしたら面白いんじゃないかって考えまして。

回文で「みごなごみ」って覚えやすいでしょう。絶対覚えてくれますね。逆に今では、本名知らない人もたくさんいます（笑）。

詩のインスピレーションが湧くとき

けっこうメモ魔みたいなのところがあって、「らくだのこぶのように風が吹いてきました」というような言葉がふとひらめくと、それを書き留めておくんです。そのほかにもラジオやテレビでひっかかる言葉を聞いたらそれをメモしておいて、もうちょっとなんか展開できるかな

と考えます。そうするうちに言葉が言葉をうんで、勝手に詩が書けてしまう。そんな感じです。

私の詩「彼岸バス」に「アロエヨグルトのひみつ」というくだりが出てきますが、これも学食で、学生と会話しているうちにひらめいた言葉をもとに展開したものです。

詩人としての活動

障がいのある方とアーティストが共同制作を行うアートリンクプロジェクトに参加してフロリダに行きました。現地では、自作の詩をラジオや本格的な劇場の舞台で朗読させてもらいました。ラジオでは日本語の詩を朗読したんですが、それがすごい快感でした。いやー、おれア

メリカのラジオで、英語でインタビューを受けて伝え、それで、日本語の詩を朗読しちゃってるよ、うわつ、みたいな（笑）。

それから、子ども対象の詩のワークショップを真庭市で開催しています。「あしたのあしし（明日の足の詩）」、と題して、子どもたちが自分の足の型をとって、その中に詩を書いたり、というようなことをしています。

今後の目標

どれだけ新しい言葉をつむげるか、かな。とにかく、自分の才能がどこまであるか、それを試してみたいですね。

◆みごなごみの詩◆

『アロエ・ヨグルトのひみつ』の本をかかえた人がのっているよくとおる声のちいさなおんなの子が
「ナミト ナミダノ アイダニハ
ウチアゲラレタ ニンギョガイルノ」
といいながらのっている
（『彼岸バス』より抜粋）

「ぼくは きのう カナリヤと おどった」という嘘と
「ぼくは きのう カナリヤいろのゆめをみた」という嘘と
どちらの嘘のほうがきみは
すきなのか
（『カナリヤと かごと』より抜粋）